平成３０年度

群馬県図書館協会会報

Ｎｏ．１３（平３１.3.31）

平成３０年度の群馬県図書館協会の活動を御報告いたします。

１　第１回代議員会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・P1

２　第１６回群馬県図書館大会報告 ・・・・・・・・・・P2～4

３　研修報告

（１）　図書館（室）職員初級研修・・・・・・・・・・・P5

（２）　図書館（室）職員実務研修・・・・・・・・・・・P6～7

（３）　図書館（室）職員専門研修・・・・・・・・・・・P8～9

４　各加盟団体活動報告

（１）　群馬県公共図書館協議会・・・・・・・・・・・・P10～12

（２）　群馬県大学図書館協議会・・・・・・・・・・・・P13

（３）　群馬県高等学校教育研究会図書館部会・・・・P14～15

（４）　群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会・・P16～17

発行：群馬県図書館協会（事務局：群馬県立図書館内）

加盟団体
- 群馬県公共図書館協議会
- 群馬県大学図書館協議会
- 群馬県高等学校教育研究会図書館部会
- 群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会
- 群馬県立図書館

第１回代議員会報告

平成３０年６月８日（金）、県立図書館３階研修室において、各団体の代議員出席のもと、群馬県図書館協会の第１回代議員会が開催された。

はじめに、中山会長（群馬県立図書館長）の挨拶があり、引き続き議事に入った。

【議題】

１　群馬県図書館協会関係

（1）平成２９年度群馬県図書館協会事業報告について

（2）平成２９年度群馬県図書館協会決算について

（3）平成２９年度群馬県図書館協会会計監査報告について

（4）平成３０年度群馬県図書館協会事業計画（案）について

（5）平成３０年度群馬県図書館協会予算（案）について

（公共図書館協議会会員の会費見直し含む：５年ごとの人口が基礎値）

２　群馬県読書推進運動協議会関係

（1）平成２９年度群馬県読書推進運動協議会事業報告について

（2）平成２９年度群馬県読書推進運動協議会決算報告について

（3）平成２９年度会計監査報告について

（4）平成３０年度群馬県読書推進運動協議会事業計画(案)について

（5）平成３０年度群馬県読書推進運動協議会予算(案)について

３　監事の指名について

安中市図書館(松井田図書館)　蜂須賀　まゆみ　氏

４　第１６回群馬県図書館大会の開催について

５　その他

関東・甲信越静地区図書館地区別研修について

平成３１年度開催予定。

事務局から上記議題が提出され、承認された。

代議員会終了後、代議員から各施設の状況や活動報告等を受け、意見交換を行った。

第１６回　群馬県図書館大会報告

新時代の図書館　－図書館の明日を考える－

日　時：平成３０年１１月２９日（木）１０時～１６時３０分

場　所：群馬県立図書館

日　程：

１　式典（１０：００～１０：３０）（県立図書館ホール）

（１）　主催者挨拶　　群馬県図書館協会長

中山　勝文（群馬県立図書館長）

（２）　来賓祝辞　　群馬県教育委員会教育長（代理）

北爪　清（群馬県教育次長）

（３）　後援・加盟団体紹介〔略〕

（４）　表彰式

①優良図書館群馬県教育委員会表彰　　太田市立中央図書館

②群馬県読み聞かせボランティア顕彰

・ＥＢＡの会（前橋市）

・読み聞かせの会”はすの実”（伊勢崎市）

・母ぐまの会（桐生市）

・せせらぎおはなし隊（甘楽町）

・草津よみきかせの会（草津町）

③優良読書グループ表彰伝達　　藤岡市読み語りの会ネットワーク（藤岡市）

２　記念講演（１０：３０～１２：３０）（県立図書館ホール　参加者１７０名　）
「ビブリオバトルでつながろう、人と本、人と人をつなげる、図書館にむけて」
谷口　忠大　氏　（立命館大学　情報理工学部　教授）

《概要》

ビブリオバトル考案者、立命館大学教授の谷口忠大氏による記念講演では、考案者ならではのビブリオバトルのスタートや裏側のお話まで聞くことができた。谷口氏の軽妙なトークで、笑いあり、真剣な質疑ありと大変充実した内容であった。

講演の内容は次のとおりである。

①ビブリオバトルはこうして生まれた
②ビブリオバトルの４つのルール
③ビブリオバトルの広がり
④人を通して本を知る、本を通して人を知る
⑤一番大事だと思っていること
⑥質疑応答

参加者アンケートの回答では、「ビブリオバトル考案者の谷口先生から直接お話が聞けて大変勉強になった。」「ビブリオバトルの本や資料からは見えない部分が理解できたことはありがたかった。」「ビブリオバトルの本質がわかり、有意義な時間でした」などのご意見が寄せられ、参加者も満足してくださったようである。

３　テーマ別分科会（１３：３０～１６：３０）

（１）第１分科会（県立図書館ホール・第２読書室　参加者７３名）
読書支援ツール「Life　with　Reading」による新しい読書推進アプローチ

第１分科会では従来の図書の価値に基準を置く読書推進とは異なるアプローチ、『Life with Reading―読書の秘訣カード』をワークショップで体験し、新しい読書推進について考えた。

講義では、『Life with Reading―読書の秘訣カード』の制作と共同研究の経緯、その誕生の源であるパターン・ランゲージ理論について、書店経営と学術の第一線で活躍する講師による熱意あふれるプレゼンテーションが行われた。

ワークショップでは、「対話のワークショップ」と「アイデア発想ワークショップ」を体験し、個人

の読書体験と図書館で取り組む新しい企画について楽しく語り合った。ファシリテーターによる発表は「ライトニングトーク」の手法で行われ、新鮮な発想が簡潔に発表されると、会場から自然に拍手が湧き起こった。

ワークショップのグループ編成は、図書館員と利用者という垣根を超えて「読書」について語る体験ができたと好評を得た。

講義とワークショップの２部制により、理論と実践の両面から新しい読書推進方法にアプローチした。

参加者からは「新たな発想が生まれるきっかけになった。とても楽しく学ばせていただいた。」、「刺激を受けた。ぜひ実践してみたい。」などの意見が寄せられた。

（２）第２分科会（県立図書館　３Ｆ研修室　参加者４２名）
災害時及び復興における図書館の対応と役割

第２分科会では、日本図書館協会図書館災害対策委員会委員として多くの災害現場、被災図書館を見てきた株式会社 栗原研究室の川島宏氏に、災害による図書館の被害状況や再開への道のりについてお話を伺うとともに、東日本大震災を経験された名取市図書館の加藤孔敬氏（東日本大震災当時 は東松島市図書館職員）をお招きしてご講演いただくことで、被災から復興に至るまでの図書館の対応と役割について考えた。

東日本大震災を経験された加藤氏と、地震や気象災害の被災図書館を多くご覧になってきた川島氏の、お二人のお話は、被害状況や復旧作業の映像もあり、具体的でショッキングなものであった。災害時に自分の図書館には何が起こるのか、その被害を最小限に抑えるために何をしなければならないかを考えておく必要性を強く感じた。

アンケートでも自館の状況に危機感を覚え、防災意識を改める機会になったという意見が多かった。

図書館（室）職員初級研修「はじめの一歩」

平成 30 年度に図書館（室）に異動、採用になった職員（正規・非常勤を問わず）を対象に、図書館の基本について研修を行った。内容は、「図書館の機能と役割、図書館員の心構え」「資料の収集と整理」「情報サービスはじめの一歩」「窓口サービスはじめの一歩」に加え討議と情報交換を行った。

実践的な内容の研修であったため好評であったが、マイクを用意してなかったため、声が聞こえづらいなど、運営上の課題もあった。アンケートでは、全日程や単元の時間に対し、やや時間が長いという意見が１５％程あったが、同時に８０％前後の参加者が普通あるいはやや短いという意見もあり、もっと詳しい話が聞きたかったという回答もあった。

１日で行える研修が限られるため、「はじめの一歩」の後に「次の一歩」の必要性を改めて感じた。

実施日：平成 30 年 4 月 26 日（木）
参加者：６３名

参加者の声の一部
〇職員一同で同じ報告を向いて仕事をしていくための心得を共有できる機会を持てた。
〇危機管理について、図書館に持ち帰って相談したいと思った。
〇実際の事例を盛り込んだ内容で分かりやすかった。
〇他の様々な図書館の方とお話する機会を設けていただき、ありがたいと思った。
〇初級だけでなく、他の機会も作っていただければありがたい。
〇今後の業務に対して自信を持って仕事をできるような気がした。
〇窓口サービスに関して、どう、声かけをして良いか悩む場面があったので、日頃から考える、職場で話し合いの時間をつくるように心掛けていこうと思った。
〇約１ケ月ほど勤務してきて、不安に思っていた利用者対応について学べて良かった。
〇図書館職員としての心構えを学べた。
〇聞き取りづらかったので、マイクがあるとありがたいなと思いました。
〇勤務中にあいまいだった問題点がはっきりした点が多々あった。
〇もっと仕事の流れを知りたい。

第１回 図書館（室）職員実務研修

日　時：平成３０年９月２７日（木）１０時２０分～１４時３０分
場　所：群馬県立図書館　３階 ホール
参加者：１０７名（講義①７３名、講義②９４名）※参加者は実人数
講　義：講義①「図書館の資源を生かす　－発想次第で何でもチャレンジー」
橋爪 文夫 氏（群馬県立図書館　館内サービス係）
講義②「本の展示、ディスプレイ、ポップ等の工夫」
狩野 達哉・原田 基幸・斎藤 哲也 氏（(株）文真堂書店）

《概要》
講義①「図書館の資源を生かす
－発想次第で何でもチャレンジー」
講師：橋爪 文夫 氏（群馬県立図書館　館内サービス係）

図書館の所蔵資料は、人間の考えるあらゆる分野に関して扱っているためどんなところと連携しても関連の資料や情報を共有できる。サービス、施設、人など図書館の資源を発想次第、チャレンジにより可能性も広がるという内容であった。
≪参加者の意見等≫
「群馬県の特色を活かした展示例を見せていただき参考になった」「埋もれた資料など表に出し利用に備えること、地域の調べ学習に活用できたら」などの意見があった。

《概要》
講義②「本の展示、ディスプレイ、ポップ等の工夫」
講師：狩野 達哉・原田 基幸・斎藤 哲也 氏（(株）文真堂書店）

客（利用者）に直感的にわかりやすい本の配列の仕方や効果的な仕掛け展開、目的の本が探しやすいディスプレイ、魅力的なポップの実例と書き方、今後の図書館との連携による可能性についての内容であった。
≪参加者の意見等≫
「ポップ作成のコツを参考にカラーの手書きで挑戦したい」「個性的な展示方法についても人や時間を工夫して取り組みたい」などの意見があった。

第２回 図書館（室）職員実務研修

日　時：平成３０年１２月２１日（金）１０時２０分～１５時００分
場　所：群馬県立図書館　３階 ホール、２階 調査相談室
参加者：４４名（講義③２９名、講義④３０名）※参加者は実人数
講　義：講義③「認定司書は、まちを変えるスーパー司書！」
砂生 絵里奈 氏（鶴ヶ島市教育委員会　生涯学習スポーツ課）
講義④「郷土関係のレファレンス」
関口 裕子 氏（群馬県立図書館　調査相談係）

《概要》
講義③「認定司書は、まちを変えるスーパー司書！」
講師：砂生 絵里奈 氏（鶴ヶ島市教育委員会　生涯学習スポーツ課）

　認定司書を目指すための基本的な条件についてや、全国に１５０人存在する認定司書のそれぞれの取り組みについてご紹介いただいた。
≪参加者の意見等≫
「認定司書によるさまざまな活動例を知ることができてよかった」「本のある場所に人が集まるきっかけとする、何でもあり、という言葉が印象に残った」などの意見があった。

《概要》
講義④「郷土関係のレファレンス」
講師：関口 裕子 氏（群馬県立図書館　調査相談係）

　レファレンスを受けることが多い郷土関係の課題について２階の調査相談室の資料を活用し解決に取り組んだ。課題は班ごとに異なったものが与えられ、その後調査プロセスを主とした発表を行った。最後によりよいレファレンス対応のための留意事項をご助言いただいた。
≪参加者の意見等≫
「調べ活動では、他館の司書との交流によって学ぶことも多く収穫があった」「改めて地元の情報の大切さを感じ日頃の情報の蓄積を心がけようと思った」などの意見があった。

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

（群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会　共催）

〇平成３０年度第１回
テーマ：「太田市美術館・図書館の試み」
日　時：平成３０年９月１１日（火）１３時３０分～１６時００分
場　所：太田市美術館・図書館　視聴覚ホール
参加者：３５名（大学図書館１７名、公立図書館１２名、高校図書館６名）
講　演：「太田市美術館・図書館の試み」
太田市美術館・図書館　館長補佐　　富岡義雅　氏

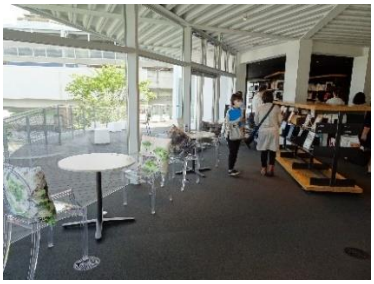
概要
　まちに創造性をもたらす、知と感性のプラットフォームとして、2017 年 4 月にグランドオープンした太田市美術館・図書館について、開設までの経緯から施設の概要、地域との関係、運営面などについてお話しいただいた。
　講演後、太田市美術館・図書館のスタッフに案内していただき、館内を見学した。

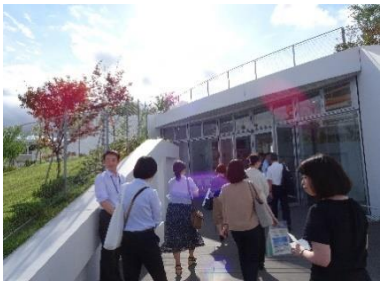
（会場・太田市美術館・図書館）

（田中会長）

（富岡講師）

（講演の様子）




（館内見学の様子）

参加者の意見等

- 太田市美術館・図書館に来てみたいと思っていたので、良い機会になりよかったです。今までにないタイプの図書館で、普段図書館に来ない利用者が本やアートに触れる空間として素敵だと思いました。
- このような施設ができるまでのプロセスもよくわかり市民参加型の良さがうかがえました。
- いろいろと興味深い施設を視察できてよかった。ありがとうございました。他館の状況がよくわかり参考になりました。
- このような施設ができるまでのプロセスもよくわかり市民参加型の良さがうかがえました。とても良かったです。
- 来させていただいただけで、建物のデザインや雰囲気に刺激を受けました。来るだけで、得るものが何かあるのではと期待させる図書館だと思いました。

等の感想が寄せられ、見学含め有意義な研究会となった。

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

（群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会　共催）

〇平成３０年度第２回

日　時：平成３１年３月１４日（木）１４時００分～１６時００分

場　所：群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館　１階アゴラ

参加者：３７名（大学図書館１４名、公立図書館６名、一般１７名）

講　演：「絵本がつなぐ過去と未来、絵本でつながる人と街」

NPO 法人　時をつむぐ会　代表理事　　続木　美和子　氏

概要

時をつむぐ会代表の続木美和子を講師にお迎えし、「たさかき絵本フェスティバル（絵本原画展）」、「まちなか絵本ぼっくす」、観音山公園（高崎市）の「ケルナー広場」など子どもたちを育み、世代や地域をつなぐ多彩な取り組みについてご紹介いただいた。また、会場に絵本を並べて、『はなをくんくん』『ちいさいおうち』『おおかみと七ひきのこやぎ』など、ご自身の体験と読み聞かせを交えながらその奥深い魅力が語られた。

最後に参加者からの質問に応じながら、1 冊の絵本との出会いがかけがえのないものになることや、読み聞かせには絵本だけでなく児童文学もぜひ選んでほしいこと、またこれから教員になる学生へ向けたメッセージなどが寄せられた。

今回の研究会は一般公開としたため、一般市民や学生の参加もあった。閉会後も、紹介された絵本について講師へ問い合わせたり、絵本の選び方についてアドバイスを求める参加者も見られた。

（会場・群馬大学）

（続木講師）

（講演の様子）

参加者の意見等

- 絵本原画展のはじまりから発展のお話をきけて良かった。人と人のつながりが大切だと感じた。
- 講師の絵本に対する情熱や信念、バイタリティあふれる活動がすばらしいと思った。
- 今年の原画展に初めて訪れて、原画のすごさに気づいてから、ずっと時をつむぐ会の活動内容が気になっていた。お話が聞けてよかった！
- 「たかさき絵本フェスティバル」、「ケルナー広場」、「本の家」に行ってみたくなった。
- これから読み聞かせを行うにあたって、参考となる話が聞けてよかった。
- 質疑応答の中で、心に染みる言葉がたくさんあった。
- 絵本の力のすごさを知った。絵本にふれてこなかったことに後悔。

群馬県公共図書館協議会市町村図書館・公民館図書室運営研究部会研修

１　日　時　平成３１年２月１３日（水）　午前１０時００分から
２　会　場　群馬県立図書館　研修室（３階）
３　参加者　１５名
４　演　題　「会計年度任用職員の理解と実際」
５　講　師　鑓水三千男　氏（千葉県市町村総合事務組合　法務専門員）
６　日　程　【受付開始】午前９時３０分から
　　【講演会】　午前１０時００分から午後１２時３０分まで
７　概要
（１）目的　県内図書館の職員の資質向上並びに市町村図書館（室）の情報交換、交流を目的として、研修を実施した。
（２）内容
　平成３２年４月１日から施行されることとなった「会計年度任用職員制度」について、現行法と比較を行いながら講義が行われた。
　地方自治体において、臨時・非常勤職員の存在無くして地方行政は運用できないと言えるが、現在の地方公務員法では、臨時・非常勤職員の任命について明確な表現がされておらず、適正な任用・勤務条件を確保することが求められていた。そのような中、今回の地方公務員法改正により、特別職非常勤職員、一般職非常勤職員及び臨時的任用職員の任命根拠が明確化（会計年度任用職員制度が創設）、特別職非常勤職員及び臨時的任用職員の任用が厳格化、あわせて地方自治法の改正により、会計年度任用職員に対する給付が整備されることとなった。図書館において、これまで一般職非常勤職員や特別職非常勤職員として任用されていた者は、会計年度任用職員にそれぞれ統一、移行されることとなる。
　会計年度任用職員の制度化に伴い、報酬等の規定など自治体に判断が委ねられているものもあり、各自治体で条例改正が必要となる。そのためには、実際に行っている業務を把握する必要があり、人事部門のみならず現場での負担も増えることになる。また、会計年度任用職員には、フルタイムとパートタイムがありそれぞれ処遇が異なるものの、その任期は１年以内と定められている。任期の終了後に再度同一の職務内容に任用されることがあり得るが、同じ職員の任期が延長されるわけではなく、あくまで新たな職に改めて任用されたと整理される。そのため、任期終了後も再度任用の保障のような既得権が発生するものではないことを理解し、事務を進めなければならない。
　会計年度任用職員制度は、許認可などの権力的な業務や組織の管理運営に係る業務を担当する「常勤職員」、定型的、裁量性を伴わない業務を担当する「会計年度任用職員」という区分を導入するものだと言えなくもない。しかしながら、公とは何か？と問われた時、市町村にとっての公は住民と直接接する現場であり、その現場を大事にしなければならないと考える。これを、定型的、裁量性を伴わないからといって会計年度任用職員にのみ任せてしまって良いのか疑問である。会計年度任用職員制度が導入されてしまう以上、市町村は公的機関が担うべき業務を精査し、その業務を誰が担うべきかを検討することが不可欠である。図書館司書についても同様で、レファレンスや郷土資料については１年や２年で何とかなるものではない。常勤する専門職の必要性を説くなど、工夫次第で司書の処遇はいかようにもなると考える。
８　参加者の声（主なもの）
・嘱託や臨時職員について常に頭を悩ませているので、この制度について勉強を進めたい。
・職員課とのヒアリング前に話を聞けて良かった。
・大変わかりやすく、今後の参考となった。

群馬県公共図書館協議会　地域資料・レファレンス研究部会研修

日　時：平成 31 年 2 月 5 日（火）午後 1 時 30 分～4 時
会　場：群馬県立図書館　3 階　研修室
参加者：29 名
内　容：講演「公共図書館における地域資料について」
　　ワークショップ（地域の特徴を活かした連携事業を考える）
　　講師　鷲澤淑子氏（石川県立図書館）

概　要

地域の資料を「郷土資料」と呼んでいるか、「地域資料」と呼んでいるか、という問いかけから始まったこの講演では（参加者は「郷土資料」が多かった）、歴史学や図書館における地域資料の位置づけ、地域資料サービスに関する文献や先進事例の紹介、地域資料サービスの課題等についてお話いただいた。現代はあらゆるものが「史料」になる時代。地域資料を積極的に集めていると回答している館でも、自治体内で刊行された資料のうち、消えているものがたくさんあると思われる。地域資料サービスの課題として、すべての資料が集められていない、書庫スペースが不足し除籍も考えねばならない、職員の人員不足、などがあがっている。これらの課題を解決するためのキーワードは「簡易・連携・分担・協同」である。いかに簡単に目録を作るか（集めているだけではゴミ）、他機関との連携、住民との協同などがあげられる。住民との協同による地域資料サービスなどの事例がいろいろあるので、参考にしてほしいという内容であった。

また、ワークショップでは、６グループに分かれ、まず、自分の地域の特徴をたくさん書き出し、その特徴を活かした、２館以上で連携した事業をグループで考えるという実習を行った。子供向けの郷土資料データベースを作る、各自治体にある有名人の墓をデータベース化する、各地域の古墳マップを作りスタンプラリーを実施する、各地の古墳や街道をつないだ歴史街道を歩く、各地域の祭りの特集を組む、各地の美肌効果のある特産品や温泉を紹介した巡回展を行う、といった様々な意見が出た。

参加者の声（主なもの）

・地域資料の収集はとても大切。いかに活かすかまで考えて業務したいと改めて思った。先生の明るいお人柄の講演で、地域資料、郷土資料とローカルな少し暗めのイメージがかわり、親しみがわいてきた。
・便利になったネットサービスの反面、永遠的な資料提供のためには民間をたよりきりにせず、各自治体、図書館でデータベースの継続に力を入れないといけないのだと思った。
・地域資料を使用したレファレンスの例を、県内図書館で共有できる方法はないか考えている。また、それをデジタル化することで、キーワード検索なども可能になるが、その際、参加館で色々と補正・訂正が出来る様にすれば、精度の高いものに出来るのではないかと思う。
・地域住民の方にも参加、協力してできる案ができて、目からうろこである。
・ワークショップについて、それぞれの地域の特産品などからのアプローチがとても考えさせられ、よかった。
・各館の方から自由な発想の意見を聴くことができ、とても楽しく、いい刺激になった。
・地域の特色を活かす地域資料の使い方は面白いと思った。
・郷土資料について、県内の連携が大切だと痛感した。レファレンス等でも活用していきたい。

群馬県公共図書館協議会　児童・青少年サービス研究部会研修

日時　平成 31 年 2 月 13 日（水）午後 1 時 30 分～4 時 30 分
会場　群馬県立図書館　3 階研修室
参加者　23 名
内容　講義　「YA サービスの実践～先進事例から学ぶ」
　　講師　駒田紘史氏（足立区立東和図書館）

　　講義　「10 代向けの本棚の作り方」
　　講師　清野愛子氏（相模原市立図書館）

概要

群馬県公共図書館協議会の各研究部会では、県内職員の資質向上並びに情報交換などを目的として研修を実施。本年度は、県外の青少年サービス先進図書館の実践的事例として、ヤングアダルトサービス研部会員でもある足立区立東和図書館長の駒田氏と相模原市立図書館司書の清野氏の 2 名をお迎えし、事例やデータに基づいた各図書館での取り組みの紹介や YA サービスの考え方をお話しいただいた。参加者の意見が活発に飛び交う、満足度が高い研修となった。

講義内容

駒田氏は、YA 担当になってからの実践的な事例を主に発表。管内中学 2 年生の職場体験や、高校生奉仕体験でのボランティアと活動した様々な取り組みを紹介された。原点に戻るためコーナーを見直し、中高生と共に作り上げた成果も残るとても貴重な体験と語った。又共に活動したことで子ども達目線を知ることができたとし、今後も積極的に取り組みたいとまとめた。清野氏は、データに基づいて YA の読書離れは本当かと説いた。そして実際は横ばい状態のデータから、図書館離れはあるかもしれないが読書離れではないとし、そこが YA サービスを考えることに繋がっていくのではないかと投げかけた。そもそも YA サービスの目的は自立した大人になるための支援であり、生涯に渡る図書館ユーザー育成への橋渡しなので、それらを念頭に流動的な棚づくりやリアル 10 代目線の選書等の重要性を語った。

参加者の声（質問）

・学校連携を始めるきっかけ作りをどうしたらよいか・居場所作りについてどう考えるか
・職場体験での取り組み（発表事例のほかに）・ブックリストの活用方法

ディスカッションにて講師側より読解力の格差についての話があり、これから取り組むべき課題として問題提起された。

群馬県大学図書館協議会　平成３０年度活動報告

Ⅰ．事　業

１．「会員名簿　2018」の配付

会員名簿を改訂し配付した。※加盟館 21 大学（28 館）会員数 127 名。

２．会報「からっかぜ通信」第 40 号、41 号の発行

第 40 号を 9 月に発行し、協議会ＨＰに掲載した。第 41 号は 3 月に発行予定である。

３．大学図書研究会の開催

第 1 回　平成 30 年 9 月 11 日　13 時 30 分～16 時 00 分（会場：太田市美術館・図書館）

「新しい連携から考える図書館の可能性」をテーマに、太田市美術館・図書館館長補佐の富岡義雅氏によ

る講演「太田市美術館・図書館の試み」および見学を実施し、35 名の参加を得た。

第 2 回　平成 31 年 3 月 14 日　14 時 00 分～16 時 00 分（会場：群馬大学中央図書館）

「絵本がつなぐ過去と未来、絵本でつながる人と街」をテーマに、NPO 法人時をつむぐ会代表の続木美和氏

による講演を実施し、一般参加を含む 37 名の参加を得た。

４．第 16 回群馬県図書館大会の共催　平成 30 年 11 月 29 日　会場：群馬県立図書館

分科会検討委員として加盟館員 2 名が参加した。

５．「相互協力便覧 2019」の配付

本協議会のホームページに掲載し、必要に応じてダウンロードできるようにする。

Ⅱ．会　議

１．「会報」編集委員会　　平成 30 年 7 月 18 日　15 時 00 分～17 時 30 分　会場：育英短期大学図書館

第 40 号、第 41 号の発行に向けて、記事内容及び表紙デザインについて検討を行った。

２．幹事館会議

【第 1 回】メール会議

本協議会の本年度の活動内容について、大学図書館研究会の開催を含め審議した。

【第 2 回】メール会議

平成 30 年度の活動及び決算について報告するとともに、平成 31 年度の事業計画及び予算案について審議した。

３．運営委員会　平成 30 年 6 月 25 日　15 時 00 分～15 時 55 分　会場：群馬大学中央図書館

本協議会の本年度の実施事業について検討するとともに、加盟館の現在抱えている問題等について意見交換を行った。

４．総会　平成 31 年 3 月 14 日　13 時 00 分～13 時 40 分　会場：群馬大学中央図書館

平成 30 年度の活動及び決算について報告するとともに、平成 31 年度の事業計画及び予算案について審議した。また、加盟館の現在抱えている問題等について意見交換を行った。

群馬県高等学校教育研究会図書館部会

１　総会及び講演会　平成３０年５月１日（火）　群馬県総合教育センター

（１）平成２９年度事業報告、会計決算報告、会計監査報告
　　平成３０年度役員及び幹事紹介
　　平成３０年度事業計画案、予算案審議

（２）講演会
　　演題：「本との出逢い、本との別れ」
　　講師：萩原　朔美　氏（前橋文学館館長）

（３）地区研修会

２　司書研修会

〈第１回〉平成３０年７月９日（月）　群馬県総合教育センター

（１）講演会
　　演題「県立図書館のWEB-OPACの便利な使い方＆相互貸借の運用について」
　　講師：中易　　愛　　氏（群馬県立図書館：地域協力係）
　　宮尾　直樹　氏（群馬県立図書館：資料情報係）

（２）分散会・分科会
　分散会①「オリエンテーション」
　　②「ビブリオバトル」
　分科会①中級研修分科会
　　②初心者研修分科会

（３）分散会・分科会報告

〈第２回〉平成３０年１０月２２日（月）　群馬県総合教育センター

（１）講演会
　　演題「『先生のくどき方』をもとめて」
　　講師：玉井　敦　氏（埼玉県立春日部東高等学校：司書）

（２）分散会・分科会
　　分散会①「図書館イノベーション」
　　②「学校統合」
　　③「ミニアイディア実践」
　　④「ようこそ先輩part３」
　　分科会①中級研修分科会
　　①初心者研修分科会

（３）分散会・分科会報告

３　冬季研究大会並びに講演会　平成３１年２月２７日（水）　共愛学園前橋国際大学

（１）読書感想文コンクール・読書感想画コンクール表彰式及び講評

（２）司書研修会分散会・分科会報告

（３）講演会
　　演題：「高校に在籍する発達障がいの特性のある生徒への支援」
　　講師：石川　京子　氏（特定非営利活動法人リンケージ理事長）

（４）研究協議分散会

・「図書館を活性化させる取り組み～授業や委員会活動を通じて～」

発表校：群馬県立前橋女子高等学校・群馬県立前橋高等学校

群馬県立勢多農林高等学校・前橋市立前橋高等学校

・「総合的な学習における学校図書館の利用について」

発表者：六本木　恵　氏（高崎経済大学付属高等学校：司書）

・「おすすめ本リストの作成と活用」

発表者：温井　裕美　氏（群馬県立沼田女子高等学校：司書）

関口　友香里　氏（群馬県立沼田高等学校：司書）

平成３０年度群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会

１　総会並びに幹事会

平成３０年５月２９日（火）　群馬福祉会館

２　平成３０年度群馬県学校図書館研究協議会中毛大会

平成３０年８月６日（月）　　前橋市総合福祉会館

・研究主題「能動的・協働的な学びを支える学校図書館」

提案：「心ときめく学校図書館づくり」　前橋市立大胡小学校　　教諭　藤川奈津江

「活気ある学校図書館づくり」　　前橋市立みずき中学校　教諭　藤川桂子

講演：「みんなで使おう学校図書館」　　群馬県立図書館　　指導主事　早川留美子

３　第６３回青少年読書感想文全国コンクール群馬県審査会

【第１回】　平成３０年１０月１６日（火）　高崎市市民活動センター

【第２回】　平成３０年１１月　７日（水）　高崎市市民活動センター

※小学校（低・中・高）、中学校の各部より各２点、計８点を県代表作品として「全国コンクール」へ出品

４　第３０回読書感想画中央コンクール群馬県審査会

平成３１年１月１７日（木）　高崎市市民活動センター

※小学校（低・高）、中学校の各部より各４点、計１２点を県代表作品として、「中央コンクール」へ出品

５　部会誌「学校図書館５９号」

平成３１年３月１日（金）発行

※群馬県小学校中学校教育研究会 web ページに掲載

６　学校司書部会の主な事業

平成３０年１０月１７日（水）　総会並びに研修会　　高崎市市民活動センター

【学校でできる！子ども達(児童・生徒)への支援】

・「学力テストと読書について考える」

～見えない支援どこまでやるか・頼まれなくてもしてる？頼まれてからしてる？～

高崎健康福祉大学　非常勤講師　小柳聡美

・「ポプラディアプラス　人物事典の使い方」人物事典を授業の中で使おう

（株）ポプラ社　図書室サポート　水口星史・上原てるみ

平成３１年３月４日（月）　　第２回研修会　　高崎市市民活動センター

「今の子どもたちのための選書のポイント」　講師　児童文学評論家　赤木かん子

平成30年度　読書感想画最優秀作品

小学校低学年　【自由読書の部】

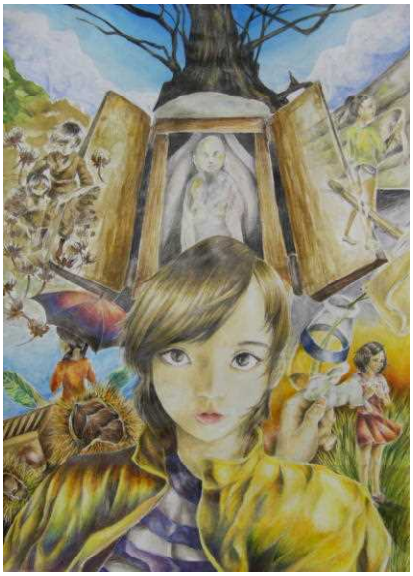
【指定読書の部】

小学校高学年　【自由読書の部】

【指定読書の部】

中学校　【自由読書の部】

【指定読書の部】



平成３０年度
群馬県図書館協会会報
ＮＯ．１３（平３１．３．３１）

編集：発行　群馬県図書館協会

事　務　局　前橋市日吉町１－９－１
群馬県立図書館内

TEL　０２７（２３１）３３３６
FAX　０２７（２３５）４１９６